

人と思想

自由と倫理

石川達三



文藝春秋

自由と倫理

昭和四十七年十一月十五日 第一刷
昭和四十九年四月五日 第四刷

著者 石川達三

発行者 檜原雅春

発行所 株式会社 文藝春秋

東京都千代田区紀尾井町三
電話(代)二六五一二一一番
郵便番号一〇二・振替東京七七八四三

印刷所 凸版印刷

製本所 中島製本

* 万一落丁・乱丁の際はお取替いたします

目次

文学についての覚書	15
戦後の文芸復興	17
ユトピア	22
時代の認識と反省	24
戦争文学	30
文学の運命	32
作家と自由	34
作家とプライバシー	40
リアリズムの衰弱	43
物語—筋について	45

I

文体について
 美的節度
 調査と文学
 問題小説
 読者の評価
 芥川賞の内外

103 101 99 97 95 92 84 76 71 64 58 54 47

唸つてゐる横光利一
 作家の死
 「人間の壁」を終つて
 鷗外の「雁」
 三島君の「英霊の声」
 高見順
 出世作のころ

II

君の情熱と僕の信実	165
国家について	179
言論の自由について	183
文学者の政治的発言	189
自立と中立	191
言論の自由	199
共産主義の宿命	201
憲法のおもしろさ	203
変革の思想とは何か	210

婦人参政権亡国論

217

時代への適応

228

安全保障

232

平和論について

234

誰のための軍備か

236

これ以上の犠牲は嫌だ

241

反米感情は消えない

245

世界は変った

253

ソ連・中国紀行

262

理想追求への手段

270

西方の動乱と日本

273

遠い国々の動乱

275

アジアへ帰れ

279

Ⅲ

310	308	307	303	296	292	289	285	282
「新聞業者」の無節操を嗤う	“疑わしき”は罰せよ	右翼	人権問題への疑問	心の中の戦争	労働争議への抗議	少数意見をどうするか	「革新陣営」を革新すること	自由が無くなる時

宗教と共産主義に関して	326
囚はれた心	329
人間の本質	334
トルストイの宗教観	336
日本の不合理	340
汚い根性について	344
ヒューマニズムの終焉	349
今日のモラルへの疑問	355
自主性	367
死について	369
原罪	371

377	373	371	369	367	355	349	344	340	336	334	329	326
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

結婚の幸福とその条件	377
婦人の位置について	373

教育について

浪費教育

私の教育ノート

愛国心の在り方について

幼稚園

農業と教育

431 429 425 410 404 399

IV

392 389 388 381

愛の構図

アダムとエバ

貞操とは利害関係である

恋愛喪失の時代

大学教育

親子関係の法律

472 471 470 467 464 461 459 456 452 449 443 434 433

ニュースと生活

“国語”に手を出すな

速力についての警告

群衆と孤独

“繁栄”の中の“虚無”

不信と不安の時代に

文語体への郷愁

生殖の美

資金カンパ

天皇の伝記

文学全集

後記
著書目録

489 486 480 479 478 477 476 475 474

言葉の氾濫
新発売
部品
平和運動
機械の能力
日本語の将来
「繁栄」の中の人間

自由と倫理

I

